

たまねぎレポート【第372号】



平成30年10月27日

阪南青果株式会社

社内報

9月の天候は、東・西日本では、日照時間がかなり少なく、降水量はかなり多かった。4日に台風21号が徳島県に上陸し、大阪湾を北上。西日本を始め東日本で暴風や高潮、大雨による被害が発生した。また、台風24号は30日に和歌山県に上陸し、東日本を通過したため広い範囲で暴風や大雨による被害が発生した。東海・関東地方の太平洋沿岸では塩害で秋冬野菜の生育・収穫に支障が出ている。9月に続き10月も全国的に多雨寡照で、秋晴れの日が少なく、野菜の種播きや作付作業が遅れているほか、根腐り等の発生もあり、生育に遅れが出ている。

気象庁が発表した11～1月の3か月予報では、この期間の平均気温は、北日本で平年並み亦は高い確率はともに40%、東・西日本と沖縄・奄美で高い確率50%。降水量は、東日本の日本海側で平年並み亦は少ない確率ともに40%。月別予報は次の通り。

11月、北日本の日本海側では、平年と同様に曇りや雨または雪の日が多い。東・西日本の日本海側では、平年と同様に曇りや雨の日が多い。北・東・西日本の

太平洋側では、平年と同様に晴れの日が多い。沖縄・奄美では天気は数日の周期で変わり、期間の後半は平年と同様に曇りや雨の日が多い。気温は、北日本で平年並みまたは高い確率ともに40%。東・西日本と沖縄・奄美で高い確率50%。

12月、北日本の日本海側では、平年と同様に曇りや雪または雨の日が多い。東日本の日本海側では、平年に比べ曇りや雨または雪の日が少ない。西日本の日本海側では、平年と同様に曇りや雨または雪の日が多い。北・東・西日本の太平洋側では、平年と同様に晴れの日が多い。沖縄・奄美では、平年と同様に曇りや雨の日が多い。気温は、東日本で平年並みまたは高い確率ともに40%。西日本と沖縄・奄美で高い確率50%。降水量は、東日本の日本海側で平年並みまたは少ない確率ともに40%。

1月、北日本の日本海側では、平年と同様に曇りや雪の日が多い。東・西日本の日本海側では、平年に比べ曇りや雪または雨の日が少ない。北・東・西日本の太平洋側では、平年と同様に晴れの日が多い。沖縄・奄美では、平年と同様に曇りや雨の日が多い。気温は、東日本で平年並みまたは高い確率ともに40%。西日本と沖縄・奄美で高い確率50%。降水量は、東日本の日本海側で平年並みまたは高い確率ともに40%。

主要(市場)の動き

野菜の概況

9月の建値市場の野菜の入荷は、224,303トン前年比88%で、相次ぐ台風の影響などで、多くの品目で品不足傾向が目立ち、入荷減の価格高となった。いずれの市場も入荷は前年比減、価格は前年比高となった。

市場別に入荷量と平均単価は、札幌市場の入荷量は前年比82%、平均単価はkg¥192で前年比119%。東京市場は前年比89%の入荷量で、平均単価はkg¥282前年比118%。名古屋市場は前年比92%の入荷量で、平均単価はkg¥257前年比116%。大阪本場は前年比94%の

入荷量で、平均単価は kg¥ 268 前年比 114%。福岡市場は前年比 89% の入荷量で、平均単価は kg¥ 221 前年比 118% となっている。

建値市場の9月の玉葱販売量は、24,594トン前年比91%で、大阪本場以外は前月に続き減少傾向が続いた。平均価格はいずれの市場も前年を大きく上回った。市場別に入荷量と平均価格は、札幌市場の入荷量は前年比95%で、平均単価はkg¥87前年比134%。東京市場の入荷量は前年比89%、平均単価はkg¥108前年比140%。名古屋市場の入荷量は前年比92%、平均単価はkg¥99前年比140%。大阪本場の入荷量は前年比140%、平均単価はkg¥106で前年比136%。福岡市場の入荷量は前年比59%、平均単価はkg¥121前年比121%となっている。

日本農業新聞社が集計した、全国主要7地区の代表荷受7社の9月の主要野菜14品目の販売量は、103,037トン前年比7%減(前月比5%増)、平均単価はkg¥163前年比21%高(前月比3%安)となっている。販売量が前年比増の品目は、タマネギ1品目だけで、前年比14%増となっている。前年並みがダイコンとトマトの2品目。前年比減の品目は、ハウレンソウが前年比33%減、ナスが25%減、ニンジンが24%減など11品目。価格が前年比高の品目は、ニンジンがkg162で前年比125%高、キュウリがkg¥353で40%高、ピーマンがkg¥413で32%高など12品目。タマネギはkg¥85で前年比23%高。前年比安の品目は、キャベツがkg¥75で前年比13%安、サトイモがkg¥288で4%安の2品目だけとなっている。タマネギは前述の市場集計と販売量が逆転しているが、高騰時の入荷は、代表荷受けに集中する傾向になるためと考えられる。

東京都中央卸売市場の9月の野菜の入荷は、121,299トン前年比89%(前月比102%)、平均単価はkg¥282前年比118%(前月比97%)で、堅調に推移した。主要15品目で入荷が前年を上回った品目は、ハクサイの102%1品目だけ。前年を下回った品目は、ニンジンが前年比71%、ハウレンソウが

77%、パレイショが80%など14品目。販売単価が前年比高であった品目は、ニンジンがkg¥183で前年比224%、タマネギがkg¥108で140%、キュウリがkg¥395で140%等13品目。前年比安の品目は、キャベツがkg¥78で前年比84%の1品目だけ。前年並みはナマシイタケ1品目でkg¥1,035となっている。

当社に関係の深い品目の一覧表は次の通り。

東京都中央卸売市場の9月の入荷量と単価

品目	入荷量 (t)	前年比 (%)	前月比 (%)	単価 (¥/kg)	前年比 (%)	前月比 (%)
野菜総数	121,299	88.5	102.2	282	117.8	97.2
たまねぎ	9,440	88.6	95.0	108	140.2	96.4
キャベツ	16,827	97.5	96.0	78	83.7	78.0
はくさい	10,869	101.5	150.8	111	107.9	88.1
だいこん	10,201	86.7	127.2	116	119.3	100.0
レタス	8,354	89.0	85.6	197	112.8	128.8
きゅうり	6,719	86.2	88.4	395	139.5	105.6
トマト	6,475	89.5	86.8	500	116.7	113.6
ばれいしょ	6,330	79.6	123.2	128	117.7	109.4
にんじん	6,148	71.0	94.9	183	223.5	133.6
ねぎ	4,114	84.4	108.0	429	133.7	110.9
かぼちゃ	2,627	74.8	127.8	254	186.2	84.1
ながいも	880	112.3	92.1	410	86.0	100.2
にんにく	240	102.6	89.6	945	91.5	92.2
れんこん	817	94.1	148.3	469	94.6	89.9

玉葱の概況

東京市場

東京都中央卸売市場の9月の玉葱の入荷量は、9,440トン前年比89%（前月比95%）で前年比、前月比ともに減となっている。主力は北海物で、北海物の入荷は8,256トン前年比84%、占有率88%で前年比5ポイントダウン。中国物は、561トンの入荷で前年比149%、占有率6%で前年比2ポイントアップ。兵庫物は、482トンの入荷で前年比314%、占有率5%で前年比4ポイントアップ。月平均価格はkg¥108前年比140%（前月比96%）。台風による輸送の乱れや地震に依る停電等で、北海産の出荷が中断したことで、北海物が入荷減となり割高の兵庫物のウエイトが上昇したことで、平均価格は予想以上の高値となった。旬別では、上旬がkg¥111、中旬がkg¥110、下旬がkg¥102となっている。産地別の月平均値では、北海物はkg¥108で前年比142%、中国物はkg¥82で前年比119%、兵庫物はkg¥132で前年比104%となっている。

10月に入ってから、少なめの入荷が続いたが相場に変化はなかった。築地市場が豊洲に移転することで、7～10日の4日間休市となったが、他市場では殆ど影響はなかった。月後半も、都内のいずれの市場も、入荷は予想を下回っているが、荷動きは鈍く、ホクレンの指示価格が実勢相場より高く、2L、L大が売れ残っている。10月の野菜市況は、天候不順の影響で前年比上・中旬とも4%減、平均価格は前年比大幅高（上旬がkg¥271で141%、中旬がkg¥258で142%）で推移。玉葱は代替え需要などで販売環境に恵まれ、入荷増ながら価格は大幅高となっている。上旬の入荷は前年比105%（北海104%）、平均価格はkg¥102（北海kg¥103）、前年比134%（北海136%）。中旬の入荷は前年比109%（北海108%）、平均価格はkg¥101（北海kg¥101）前年比133%（北海134%）の高値で推移している。

名古屋市場

名古屋中央卸売市場の9月の玉葱の販売量は、5,029トン前年比92%（前月比108%）で、前年比減、前月比増であった。主力は北海物で販売量は、4,781トン前年比89%、占有率は95%で前年比3ポイントダウン。兵庫物の販売量は110トン前年比233%、占有率は2%で前年比1ポイントアップ。愛知物は103トンの販売量で前年比252%、占有率は2%で前年比1ポイントアップ。平均単価はkg¥99前年比139%（前月比93%）で、順調に推移した。産地別の月平均価格は、北海物がkg¥99前年比139%。兵庫物がkg¥121で前年比124%、愛知物がkg¥49で前年比72%となっている。

10月に入り、兵庫物は、入荷が少ないものの、価格高で引き合いは弱く荷動きは鈍化した。北海物のは、概ね順調で荷動きもまずまずであったが、L大中心の球流れで、需要はLの引き合いは強いが、L大に荷凭れ感が出て、L大の売り込みに苦労した。此処に来て、北海物のは、少なめだが、荷動きは今一つである。特に、2Lは買手が付かず、2L・L大は依然として動きが鈍い。

大阪本場

大阪市中央卸売市場本場の9月の玉葱の販売量は、3,603トン前年比140%（前月比113%）で、北海産の出荷が収穫遅れと地震や台風により出荷が中断したことで、直送品の入荷が少なかった。他方、転送業者等に声掛けして集荷に努め、前年以上の数量を確保した。また、府県産の集荷に努めたことで、前年を大幅に上回る販売量を確保した。主力は北海物で、販売量は2,103トン前年比119%、占有率は58%で前年比11ポイントダウン。兵庫物は921トン前年比126%、占有率は26%で前年比2ポイントダウン。長崎物は487トン前年比1269%、占有率は14%で前年比13ポイントアップ。月平均単価はkg¥106前年比136%（前月比96%）で堅調に推移した。産地別の平均単価は、北海物がkg¥104で前年比147%、兵庫物がkg¥141で前年比145%、長崎物がkg¥48で前年比113%となっている。

10月に入り、兵庫物の入荷は殆ど冷蔵物に切り替わり、主力JAの冷蔵物については、値上げ要請が強く、荷受けも追随型の販売に転向し、相場は10kg ¥100高となった。北海物は、荷動き回復歩調で九州方面への転送需要が活発化し、順調な流れが続いた。月半ばには、兵庫の冷蔵物は、高値疲れで引き合いが鈍化し相場は弱保合となった。北海物は、オホーツク管内主力で、2L・L大の比率が高く、2L・L大は弱含み、L・Mは強保合の動きとなった。此処に来て市場内に弱気ムードが漂い始めているが、荷受けサイドでは産地の強気ムードを受けて、先行きの入荷減を懸念し、価格維持に努めている。1日～20日の入荷量は前年比105%（北海が前年比99%、兵庫が127%）、平均単価はkg ¥108（北海 ¥101、兵庫 ¥140）前年比148%となっている。

福岡市場

福岡市中央卸売市場の9月の玉葱の販売量は、2,175トン前年比59%（前月比118%）で、引き続き減少傾向で前年比減、前月比増となっている。主力は北海物で、北海物の販売量は1,414トン前年比89%、占有率は65%で前年比22ポイントアップ。中国物は280トン前年比148%、占有率は13%で前年比5ポイントアップ。佐賀物は259トン前年比87%、占有率は12%で前年比4ポイントアップ。平均単価はkg ¥121前年比121%（前月比107%）で、品薄高傾向が続き堅調に推移した。産地別の平均単価は、北海物はkg ¥124前年比161%。中国物はkg ¥73前年比104%。佐賀物はkg ¥128前年比124%となっている。

10月に入っても、風水害の後遺症で鉄道輸送の回復が遅れ、北海物の入荷は減少傾向であった。府県産は、長崎物と愛媛の冷蔵物が少量入荷しているが、こだわり筋向けの販売で高値を維持している。北海物は、販売が軌道に乗った途端に台風被害で入荷が減少、品集めに苦労した。現在は、北海物の入荷は概ね平常に戻っている。入荷はオホーツク管内物が主力で、L大中心の球流れで、少ないL・Mは引き合いが強く完売状態だが、2L・L大は荷動き鈍く、

売れ残りが発生している。1日～20日の販売量は、前年比75%、平均単価はkg¥104前年比120%である。

10月25日(木)の建値市場の玉葱市況は次の通り

【札幌市場】 入荷178トン、強い

北 海 20kgDB2L ¥1,900～1,850、L大 ¥2,000～1,800、L ¥1,900～1,850、
M ¥1,600～1,500。

北 海 20kgNT2L ¥1,850～ L大 ¥1,850～1,750、L ¥1,850～1,700、
M ¥1,500～1,400。

【太田市場】 入荷147トン、強保合

北 海 20kgDB2L ¥1,900～1,800、L大 ¥1,900～1,800、L ¥1,900～1,800、
M ¥1,500～1,400。

【名古屋北部】 入荷120トン、弱い

北 海 20kgDB2L ¥2,000～1,900、L大 ¥2,000～1,900、L ¥1,900～1,800、
M ¥1,600～1,500。

兵 庫 10kgDB2L ¥1,400～1,300、L ¥1,400～1,300、 M ¥1,600～1,500。

【大阪本場】 入荷 127トン、保合

北 海 20kgDB2L ¥2,000～1,800、L大 ¥2,000～1,900、L ¥2,000～
M ¥1,700～

兵 庫 10kgDB2L ¥1,400～1,300、L ¥1,500～1,300、 M ¥1,500～1,300。

【福岡市場】 入荷188トン、強い

北 海 20kgDB2L ¥2,000～1,800、L大 ¥2,200～1,900、L ¥2,200～2,000、
M ¥1,800～1,700。

愛 媛 10kgDB2L ¥2,000～1,800、L ¥2,000～1,800、 M ¥1,600～1,500。

供給(産地)の動き

秋冬期の供給産地は、北海道が主力で内ホクレンの占有率は85%前後に達する。従って、ホクレンの出荷姿勢が、市況を左右する。ホクレンの調査では、今年産の生産量は692、270トン前年比96%、出荷量は645、440トン前年比95%とされている。今年の作況は、地域別、圃場別の格差が大きい。産地関係者の多くは、9～10月の高値市況を反映して、先高期待感が強く、出荷は後ズレ傾向にある。

府県産は、即売物のお荷が終了し、冷蔵物のお荷期になる。9～10月の高値市況を反映して、冷蔵物のお荷進捗率は10月15日時点で、既に20%を上回る状態で前進化している。全玉連の9月5日時点の在庫調査では、25、100トンの在庫で前年比105%。過去5か年では平成26年の26、900トンに次いで多い。

輸入は、北海産の不作情報と、ホクレンの業務・加工向けが、前年比大幅カットが通告されたことで、9月以降は増加傾向にある。全玉連の聞き取り調査では、10～4月の輸入見込み量は、177、000トン前年比109%となっている。

北海道産地

出荷の最盛期を迎えた9～10月は、相次ぐ台風や地震の影響で、出荷が滞ったことや、他野菜の出回り減で、近年にない高値市況で推移した。今年産の作柄はホクレン発表の様に、オホーツク管内では平年作亦はやや上回り、その他の地域は不作である。現在の出荷は早生系のオホーツク222が主力で、オホーツク管内はL大中心、その他の地域はL中心の球流れである。天候不順で病害防除が不徹底となり、病害の発生率が高い。亦、表皮が薄く皮剥け・裂皮が多く、品質的には前年に比べて見劣りする。出荷は後ズレ傾向にあるものの、出回り量の前年比減に加え、北みらいの大型冷蔵庫が稼働し、初夏の6～7月販売向けに12、000トンの貯蔵(先送り)が計画されていること等で、今後の出回り量は前年をかなり下回るものと予想され、先高期待ムードが強まっている。

府県産地

即売物は、北海道産の出荷が後ズレしたことで、8～10月の市況が高値で推移

し、生産者の収入増に貢献した。冷蔵物の出荷は順調で、市況は現在も高値で推移している。冷蔵物の90%弱を占める淡路島では、好市況を反映して、出荷進度は10月半ばで既に20%を上回っている。今年の冷蔵物は、冷蔵貯蔵の好適品種の球肥大が良好で、大粒傾向で2Lの比率が高く、Mの比率が低い。品質的には病害による腐敗の発生率は前年より高く、現在のロス率は10%近い。生産者の間では、既に次シーズンの早生種の定植が始まっている。種子の手当て状況からの予想では、早生の作付ウエイトが高くなる傾向にある。

佐賀では、早生種の一部でポットの培土不良で苗立ちが悪く、蒔き直しなど問題が発生している。生産者は、近年ベト病に悩まされていることから、中心の白石地区では、調達した種子を残し、他作物への転作を進めている生産者も多く、かなりの減反が予想される。長崎の極早生は昨年並みの作付で、生育は順調である。

外国産地

9月の輸入は速報値で、25, 101トン前年比127%(前月比108%)で増加傾向である。国別では中国が24, 438トン前年比129%。アメリカが607トン前年比419%。ニュージーランドが52トン前年比200%。となっている。

中国、現在の供給産地は甘粛省で、8月下旬から入荷が始まっている。今シーズンの作付面積は定かでないが、夏場の高温で生産量は前年を下回ると言われている。中国内のマーケットは、8月下旬から堅調に推移したことや、海上運賃の値上がりで、オファー価格は上昇傾向となったものの、国慶節後は国内マーケットが軟調に転じ、産地価格も弱含んでいる。現在の価格は、剥き玉20kg・C&F・\$7.60。皮付き\$6.00の水準である。

アメリカ、今シーズンの貯蔵性玉葱の作付は、前年比102%、日本向け主力産地のワシントン州では、夏の熱波の影響で早生種の生産はダウンしたが、貯蔵用の晩生種は、球肥大良好で豊作型の仕上がりととなった。産地在庫は豊富で、国内マーケットは弱含みで推移している。現在、産地価格は、FOB・50\$・\$5.00~5.50で推移している。国内マーケットは50\$・\$6.00~5.50。日本向

けはC&F・Jサイズ \$ 10.00。SJサイズ \$ 10.10。Mサイズ \$ 9.60。北海産の加工・業務向けの供給減を反映して、今月に入り成約が進んでいる。

11月の市況見通し

相次ぐ台風と地震による被害の後遺症で野菜市況は、現在も高値が続いている。北海産玉葱も生育・収穫の遅れや輸送の乱れで、出荷最盛期の9～10月の出回り量が前年を下回ったことや、他野菜の代替え需要などから市況は予想外の高値で推移した。生産者段階では粗選別が終盤を迎えており、此の先倉入れが終わると、出荷調整が容易になることから11月市況は安定化し、中心相場はL大 ¥2,000～1,800 で推移する予想。(了)